

愛を通して制度を組み替える：平和に向けて若者が進む道のり

(原文は英語)

ゲーナ・クッバ (16 歳)

米国ニューハンプシャー州

フィリップス・エクスター・アカデミー

平和な世界とは、衝突がない世界ではなく、不必要な苦しみのない世界です。他者の尊厳や幸せを犠牲にする衝突は、人間性を脅かします。そうした脅威にも関わらず、私たちには、なぜ根本的に搾取と抑圧のシステムに加担しているのかを理解しようという危機感がありません。若者たちは、より公正で平和な世界への取り組みを始めることができます。と言うのも、自分たちを取り巻く世界についてのどのように考え認識しているかについて、じっくり調べるからです。私たちのより複雑な制度やシステムは、世界の捉え方に基づいています。社会の組織は、核となる信条によって左右されます。学校教育から経済に至るまで、文化や習慣の中にはっきりと見て取ることができます。私たちのシステムの土台となる信条は当然、私たちが支持する信条となります。こうした信条はあらゆる社会構造の中に織り込まれ、一端を断ち切ればその全てが崩壊してしまいます。私たちは、全てのコミュニティを一つの原則に従わせようとしします。宇宙が混沌へと向かうのは法則ですが、私たちは躍起になって厳格な秩序に固執します。「現代」社会は、秩序立ったシステムと構造という基盤の上に成り立っています。しかし、これこそが私たちに害を与えているのです。こうした秩序を維持するには、これらのシステムの土台となる信条を私たちが支えなければなりません。この厳格な秩序を打ち砕くことができるのは若者たちです。自分たちの制度の主体となることで、私たちはシステムを変える重要な役割を果たすことができるのです。

不必要な苦しみを取り除くために、若い世代は私たちのシステムの基盤となっている信条に疑問を投げかけ、異なるアプローチをし始めることができます。社会が若者に対し、世界の捉え方、ひいては世界の扱い方について誤りがあるかどうかを立ち止まって問うように促すことはありません。若者は、さらに思いやりや、自分自身を知り世界中の格差を埋めるための力を持っています。私たちはかつてないほどに、ネットワーク状に繋がっていますが、その繋ぐ糸はどんどん細くなっています。私たちは、地球や自分たち自身にストレスを与えてしまっています。絶え間ない生産や活動に心を奪われてしまいました。若者の役目は、お互いの関係や自然界を修復し癒すため、愛の力を取り戻すことです。皆でお互いに思いやりを持ちながら生き、何が私たちを阻んでいるかを知らなければ、平和協定の締結や戦争の終結を期待することはできません。何が私たち人間を人間たらしめているのかに焦点を当てるのは、まずは若者たちからです。私たちが無私無欲になり真剣に愛することができなければ、自

由、持続可能性、正義、民主主義という目標は達成できません。若い世代は、私たちを取り巻く世界への感謝を促す能力を持っています。こうした制度の組み替えに早く取り掛かれれば取り掛かるほど、私たちの社会にさらに融合をもたらすことができます。愛の力を生かすことで、私たちはもっと平和な世界へ近づくことができるのです。

私たちは、自分たちを隔離し閉じ込めるためのこざいプラスチック容器を作りました。生命を扱い尊重するために、私たちが社会から課せられる義務は、たとえあったとしても限定的です。私たちは、発泡スチロールトレイに載せられラップに包まれ、完璧な状態で供給された家畜の肉を購入します。私たちは自分たちが摂取するために殺された生命のことを考えることも尊ぶこともしません。息苦しい都会の空気から逃れるために飛行機を使いますが、大気に放出されるその排気には無関心です。私たちは今までになく進歩していますが、どう愛せばいいのかわかりません。愛せないのなら、互いにとって、自分自身にとって、自分以外の世界にとって、私たちはどのような存在なのでしょう。お金が満たせるのは空虚な心だけです。愛は互惠関係、全体の成長、そして尊重することの価値を教えてください。愛することとは、あるものの本質的な価値を十分に理解することです。もし愛を世界へと広げれば、きっと私たちは宇宙の無秩序を受け入れ始めるでしょう。抑圧的な制度は、思いやりによって根絶されるかも知れません。愛によって、私たちは正しくないものに対抗できるようになります。それは世界を変革しようとする意志です。まずは私たち若者から徹底的に愛することを始めたら、どのようなことが実現できるか、自分たちのシステムを構成する信念が、愛という土台の上でどのように生み出されるかを想像してみてください。私たち若い主体が、現状に対し誠意を持って挑めば、平和な世界は実現可能なのです。